

# 地域社会で育む『輝く女性研究者支援』—大分大学での女性研究者支援事業—

## 第1回 そのとき大分大学は？

大分大学学長補佐(女性研究者支援担当)  
女性研究者サポート室長・医学部准教授

松浦 恵子

### ■はじめに

大分大学は、複数のキャンパスが、大分市と由布市という二つの市にまたがって存在する大分県唯一の国立大学法人です。大分大学では平成二十二年度から、文部科学省「科学技術振興調整費による女性研究者支援モデル育成事業(現「女性研究者研究活動支援事業」)が始まりました。どのようにしてこの事業が始まったのか、その背景、目的と体制、事業内容、課題と展望について、これから四回シリーズでお伝えして参ります。

背景—女性研究者支援が始まった、そのとき

大分大学は？—

平成十八年度から全国で女性研究者支援が始まりましたが、大分大学で女性研究者支援が形あるものとして始動したのは平成二十二年度です。その前年の平成二十一年度、大分

大学では、職員の仕事と育児の両立ができるような環境をつくり、職員全員が能力を十分に発揮できることをめざして、「国立大学法人大分大学次世代育成支援対策推進法に基づく行動計画」を作成し、目標達成に取り組むことになりましたが、具体策の検討が必要な状況でした。また大分県は、男性が家事をする時間が全国で一番短いという報告があり、男女共同参画は県をあげて取り組まなければいけないという風潮が盛り上がってきた時期でもありました。具体的には「大分県庁子育てパサポートプラン」、「新おおいた子ども子育て応援プラン」が平成二十一年度より実施されていきました。また九州地区では、熊本大学、九州大学、宮崎大学、佐賀大学、長崎大学、と相次いで女性研究者支援がはじまっていました。平成二十一年度に「第一回九州アイランド女性研究

者支援シンポジウム」が宮崎大学で開催されました。同シンポジウムにパネリストとして出席した大分大学の藤岡理事(研究・医療担当)は、九州での女性研究者支援事業が進んできた実態を体感し、大分大学でも女性研究者支援が具体的に形となるべきであることを強く心に抱きました。

大分大学は、教育福祉科学部、経済学部、工学部、医学部の四つの学部と五つの大学院研究科から構成され、学部生約五〇〇〇名のうち約三九%を女子学生が占めています。平成二十一年度では、修士・博士課程の女子学生は二九・四%、教員は一四・九%でした。

平成二十一年度末、大分大学で女性研究者を対象とした緊急アンケート調査が実施されました。女性教員四四名(五一%)の回答が得られました。全員が女性研究者支援の必要性を訴えており、そのなかでも、環境整備として①男女を問わない育児・介護休暇取得の



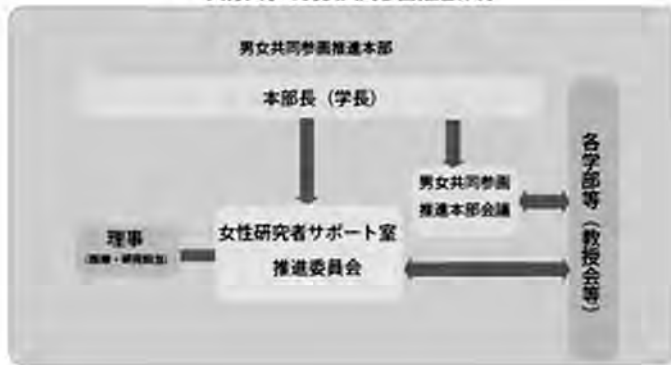
同参画はその基本的な重要な柱となっていること、大学と地域が協働し、男女共同参画の推進を図りながら、地域の活性化・人づくり、

促進、②育児支援（保育施設や時間の拡充、病児保育の実現）、③勤務体制の柔軟化、また研究支援として①実験・研究補助員の一時雇用、②出産・育児による研究中断後の研究助成金が求められていました。また女性研究者同士の情報交換の場や、男女共同参画社会に関する啓発活動、意識改革、さらにロールモデルの提示が必要であるという記述も多くみられました。同時期、学内女性研究者支援ワーキンググループが結成され、平成二十二年科学技術振興調整費（女性研究者支援モデル育成）への申請がなされました。

平成二十二年五月、当事業に採択され、平成二十二年七月、大分大学女性研究者サポート室が開設されました。また、同時に大分大学男女共同参画推進本部も設立されました。

いよいよ、具体的な女性研究者支援がはじまったわけです。同年十月には男女共同参画推進宣言、行動計画が定まりました。同年十二月にキックオフシンポジウムが開催され、板東久美子氏（文部科学省生涯学習政策局長（当時））が「地域における男女共同参画の推進について」と題した特別講演をされました。これからの社会・組織の活力や持続的発展にとって多様性の推進は不可欠であり、男女共同参画はその基本的な重要な柱となっていること、大学と地域が協働し、男女共同参画の推進を図りながら、地域の活性化・人づくり、

大分大学の男女共同参画推進体制



地域課題解決への取り組みを進めることが重要であることを述べられました。

**目的と体制**—全学的に支援する。女性研究者支援は学部を超えて、職種を超えて—

女性研究者サポート室は、全学部・全研究科を対象に、研究環境の整備や意識改革などを行うことにより、女性研究者が研究と出産・育児等の両立ができ、その能力を十分発揮しつつ研究活動を行える仕組みを構築することを目的とします。

大分大学では、女性研究者支援の対象を広くとることに決めていました。自然科学系だけでなく全学を対象にすること、常勤教員だけでなく、技術補佐員や大学院生なども研究者として支援の対象にすることをはじめから決めていました。もちろん、男女共同参画の観点から、必要などころでは男性研究者も支援対象にしました。

全学的に、学部やキャンパスを超えて支援する体制



にするため、同時に全学的に男女共同参画推進本部会議が設立されました。女性研究者サポート室長は学長特別補佐としての役を担うこととなりました。大分大学では初めての女性の学長室会議の一員の誕生でした。副室長には事務担当一名（女性）と教員担当一名（男性）が就任し、事務担当非常勤職員も含めて五名のスタッフがそろいました。事業の推進のために、各学部から二名ずつの推進委員が任命され、事務職員とともに推進委員会も発足しました。平成二十二年八月、第一回推進委員会が開催され、体制と事業計画が議論されました。室の名前は推進委員会、FAB (Female Academics at Burudai) (大分大学のことを地元では『分大 (Burudai)』と呼ぶことから) を略した) と名付けられました。頭文字は英語の Fabulous (すばらしい) とのダブルミーニングです。素晴らしい女性研究者のための組織をめざしての命名でした。男女共同参画推進本部は学長を本部長とし、理事・学部長・センター長等と学長特別補佐 (サポート室長) から構成され、女性研究者サポート室と連携を密に図ることになりました。

平成二十三年度末、且野原キャンパスに男女共同参画推進本部棟が開設し、ハード、ソフト両面での取り組み体制が確立されました。